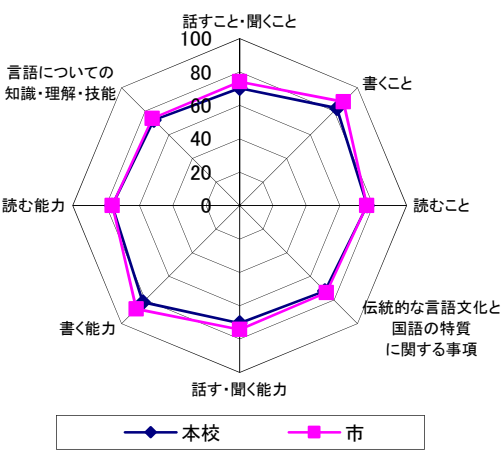


宇都宮市立清原中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	70.4	74.2	68.8
	書くこと	82.5	88.0	73.8
	読むこと	76.4	76.2	71.7
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	72.4	73.6	68.8
観点別	話す・聞く能力	70.4	74.2	68.8
	書く能力	81.9	87.5	73.8
	読む能力	76.4	76.2	71.7
	言語についての知識・理解・技能	72.6	74.0	68.7

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

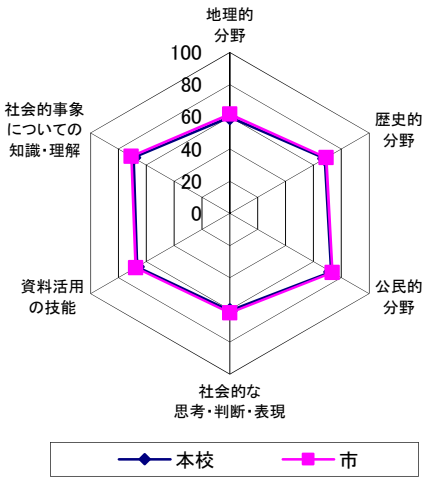
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	●平均正答率は、70.4パーセントであり、市の平均を3.8ポイント下回っている。特に「話の内容を正確に聞き取る」問題においては、市の正答率を7.2ポイント下回っている。 ○「聞き手に理解してもらうための話し方の工夫を聞き取る」問題においては、市の正答率を2.9ポイント上回った。これは昨年度の調査では下回っていた分野の問題であった。	・話の内容を正確に聞き取るために、メモの取り方を学ばせるとともに、話の主軸を聞き取る練習となるような基礎的な聞き取りテストへの取り組みを習慣づけていきたい。また、教科書記載の「話すこと・聞くこと」の領域の単元を活用した授業の展開を心がけたい。そして、その授業の中で話し合い活動を多く取り入れ、主体的な学びができるよう話す・聞く能力を養いたい。
書くこと	●平均正答率は、82.5パーセントであり、市の平均を5.5ポイント下回っている。特に、「自分の考えを明確に書く」問題では、本校の正答率の76.4パーセントは市の正答率を7.4ポイント下回っており、「書くこと」の領域の問題の中では唯一80パーセントを下回った。	・短文の作成を日々の授業の中に取り入れて、習慣づけて行っていきたい。また、整理された構成のうえ、説得力のある文章を書く練習のために、まず構成メモを書き、それを文章に起こすという手順を徹底して促していきたい。そのために、授業の中で、定期的に文章を書くミニテストを行うことで、「書くこと」の更なるスキルアップにつなげていきたい。
読むこと	○平均正答率が76.4パーセントと市の平均正答率より0.2ポイント上回っているが、ほぼ同水準と言える。「文章の表現の特徴を捉える」問題においては、市の平均値を1.8ポイント上回った。 ●「登場人物の人物像をとらえる」問題では、市の正答率を4.2ポイント下回る結果となっている。	・読む力の中でも「登場人物の人物像をとらえる力」を養うため、長文の単元における登場人物の人物像をとらえる時間を多く設けたい。その中で、登場人物の人物像を図に整理するなど、ワークシートづくりや板書計画を工夫し、生徒の理解を助ける必要がある。また、人物像をとらえる際、生徒自身が、自らの考えの根拠となる箇所を明らかにして答えるよう、声かけをしていきたい。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	●平均正答率は、72.4パーセントであり、市の平均を1.2ポイント下回っている。特に、「歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す」問題では、市の平均を8.3ポイントと大幅に下回った。 ○「文章の展開に即して主題をとらえる」問題では、市の平均正答率を3.4ポイント上回った。	・歴史的仮名遣いについて、まず古典に対する苦手意識を払拭するためにも、授業づくりを工夫していきたい。導入部分で、古典作品の紹介を映像資料やパワーポイントなどを使って視覚的にアプローチしたり、ミニゲーム形式で歴史的仮名遣いを学んだりするなど、生徒の興味関心を喚起しながら、学力の向上に結び付くよう支援していきたい。

宇都宮市立清原中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	地理的分野	59.8	61.7	54.6
	歴史的分野	68.1	69.2	59.6
	公民的分野	72.6	73.6	67.8
観点別	社会的な思考・判断・表現	60.6	61.9	51.9
	資料活用 of 技能	66.6	67.7	57.7
	社会的事象についての知識・理解	69.2	70.7	64.7

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
(社会では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

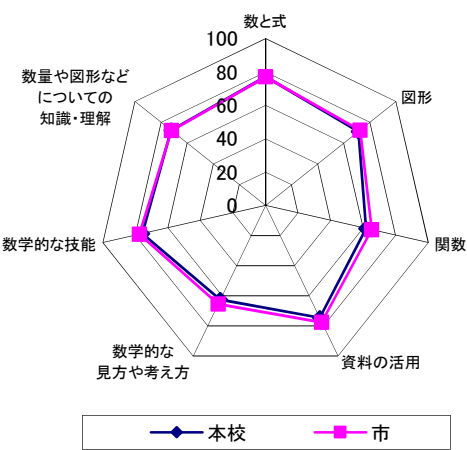
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	●平均正答率は前年度同様、市の平均よりも1.9ポイント低くなっている。 ●日本周辺の海流の名称についての正答率が低かった。市の平均より5.8ポイント低い。 ○地形図の読み取りは市の平均より4.6ポイント高い。	・市の平均を大きく下回るものはあまりないが、地図の読み取りや、資料から考察する力が弱い。地図を読み取らせること、資料を読み取らせ、考察させることが必要だと感じる。短い言葉でも自分の力で表現させることも大切である。
歴史的分野	●平均正答率は市の平均よりも1.1ポイント低くなっている。 ○昨年度は、4.5ポイント低かったので、昨年度よりも苦手が解消されている。 ●各問の正答率から、市の平均よりも低い主な内容は、室町～江戸時代である。その中でも室町時代の文化についての正答率が市の平均より7.6ポイント低い。	・武士の時代について、鎌倉時代の仕組みについては理解しているが、室町、江戸と時代がたつにつれて理解が曖昧になってしまっている。時代の流れを把握させつつ、各時代の特徴をとらえさせていきたい。
公民的分野	●平均正答率は市の平均よりも1.0ポイント低くなっている。 ○昨年度は、2.7ポイント低かったので、昨年度よりも苦手が解消されている。 ○各問の正答率で市の平均よりも高かったのは、高齢社会、法律案が成立する仕組みについてである。 ●市の平均よりも低い主な内容は、人権について、議院内閣制についてである。	・地理や歴史に比べ、理解している内容が多い。 ・人権についての内容や、政治についての内容の理解が弱いので、理解させていく必要がある。 ・公民的分野では、これから担っていく人材を育てていく必要がある。現代の社会を見つめ、しっかりと考えていけるような生徒を育てていきたい。

宇都宮市立清原中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	77.3	77.1	71.0
	図形	71.2	72.4	59.3
	関数	61.7	65.2	51.0
	資料の活用	74.6	77.6	67.1
観点別	数学的な見方や考え方	62.6	65.5	48.8
	数学的な技能	75.7	77.5	69.8
	数量や図形などについての知識・理解	72.3	72.1	61.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

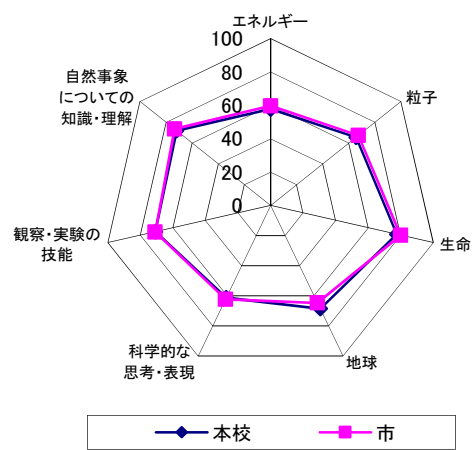
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○平均正答率は、市の平均を0.2ポイント上回っている。 ●代入法を用いての連立方程式を解く問題では4.4ポイント、解の公式を用いて2次方程式を解く問題では8.8ポイント市平均を下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・正負の数が入った四則計算・1次式の計算の定着に向け、反復練習を引き続き行っていく。それをもとに、連立方程式・2次方程式の計算のように発展的な問題でも対応できるように、徐々にレベルを上げていき、積み上げていく。
図形	●平均正答率は、市の平均を1.2ポイント下回っている。 ○対象の軸を選ぶ問題では2.8ポイント、角柱の直線や平面の位置関係についての問題では9.6ポイント市の平均を上回った。 ●角の二等分線を作図する問題では10.4ポイント、三角形の合同を証明する問題では2.2ポイント市の平均を下回った。	・作図は基本となる垂直二等分線・角の二等分線・垂線の作図が確実に定着できるように反復練習を行う。空間図形では授業でデジタル教科書や立体模型を用いて、立体を見たり触ったりする活動を増やし、立体をイメージする力をはぐくむ。
関数	●平均正答率は、市の平均を3.5ポイント下回っている。 ○xの2乗に比例する関数の変化の割合を求める問題では4.4ポイント市の平均を上回った。 ●文章を読み取り問題文中のxとyの関係を正しく表すグラフを選択する問題では市の平均を5.7ポイント下回った。	・関数という分野自体に苦手意識を持っている生徒が多いため、1学年で学習する比例・反比例の段階から、関数の意味やその性質を丁寧に指導し、2数の変化にどういった法則や関係があるのかを理解させたい。
資料の活用	●平均正答率は、市の平均を3.0ポイント下回っている。 ○6本のくじから1本をひくときの確率を求める問題では2.5ポイント市の平均を上回った。 ●度数分布表から、階級の相対度数を求める問題では11.2ポイント市の平均を下回った。	・相対度数を求める問題は毎年正答率が低い部分であるため、これも反復練習で定着を図っていく。確率の問題では、樹形図を正しくかけるだけでなく、表や計算を用いているいろいろな角度から問題にアプローチできる力を身につけさせたい。

宇都宮市立清原中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	57.8	59.7	57.9
	粒子	65.5	67.4	59.8
	生命	77.6	79.9	73.5
	地球	68.5	64.7	54.6
観点別	科学的な思考・表現	61.2	62.3	56.3
	観察・実験の技能	70.8	70.9	65.4
	自然事象についての知識・理解	72.2	73.5	66.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

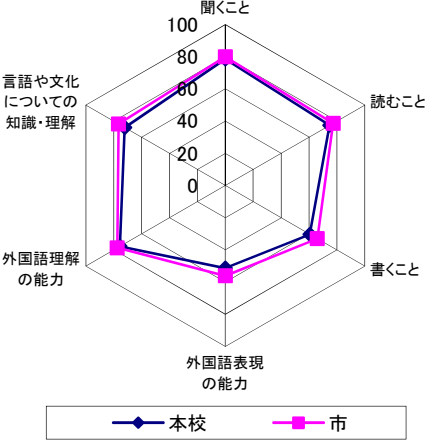
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	●平均正答率は市の平均を1.9ポイント下回っている。 ○音の伝わり方を理解している。 ○位置エネルギーと運動エネルギーの関係を理解している。 ●音の速さを計算することが困難である。 ●コイルが作る磁界についての理解が不十分である。	・少数の割り算など、基本的な計算力を身に付けられるよう繰り返し練習する時間を十分に確保する。
粒子	●平均正答率は市の平均を1.9ポイント下回っている。 ○金属の性質を理解している。 ○BTB溶液の色の变化から、水溶液の性質を区別することができる。 ●分解を化学反応式で表すことが困難である。	・化学反応式や電離式を書くためには、化学式やイオン式を覚える必要がある。小テストを何度も実施するなどして、確実に身に付けさせたい。
生命	●平均正答率は市の平均を2.3ポイント下回っている。 ○胚珠の様子から、種子植物を分類できる。 ○細胞分裂の仕組みを理解している。	・他の領域よりも正解率が高いが、1年次に学習した植物の分類の正答率が低かった。3年次に生物の成長を学習する際、1、2年次の内容を復習しながら関連づけて学ぶことで、理解を深めさせたい。
地球	○平均正答率は市の平均を3.8ポイント上回っている。 ○火山岩の特徴を理解している。 ○火山の形とマグマの関係を理解している。	・スケールが大きすぎてイメージがしづらい領域なので、モデルや動画を活用して理解を深めさせたい。

宇都宮市立清原中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	78.5	79.9	75.7
	読むこと	74.8	77.3	72.8
	書くこと	60.7	66.0	69.3
観点別	外国語表現の能力	51.3	56.1	58.8
	外国語理解の能力	75.7	77.6	72.3
	言語や文化についての知識・理解	72.0	76.6	76.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
(英語では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	●平均正答率は、市の平均を1.4ポイント下回っている。 ○絵を適切に表す英語を聞き取ることは、市と同じレベルと考えることができる。 ●対話の内容を聞き取り、それに対する反応の仕方で市の平均を2.3～4.4ポイント下回り、対話文の応答にやや難がある。 ○英文の要点を聞き取り、適切な応答をすることにおいては市の平均を上回る問題もあった。	・授業中の指示や説明もできるだけ英語を使って行うなど、教師が英語を話す場面を増やす。またALTの活用の仕方を工夫して、生徒がネイティブの英語を聞く機会を増やし、英語に慣れさせる。 ・相手からの質問にその場に応じた返答例をより多く示し、様々な場面での反応の仕方を身に付けさせる。
読むこと	●平均正答率は、市の平均を2.5ポイント下回っている。 ●接続詞の用法を理解するポイントが、6.2ポイント市平均を下回っている。 ●対話の流れから登場人物の適切な発言を判断することが市平均を5.4ポイント下回っている。 ○長文の読み取りのうちスピーチの内容を読み取る点で市平均を2.3ポイント上回ることができた。	・文法的事項の理解を深めさせる。 ・できるだけ多くの英文に接する機会を増やしたい。 ・会話文では、状況や場面を意識して読む習慣をつける。 ・重文や複文に対しての使い方の反復練習を増やすなどしたい。
書くこと	●平均正答率は、市の平均を5.3ポイント下回っている。 ●単語を正しく書く問題の正答率が市の平均を9ポイント下回っているものがある。 ●正しい語順に並び換える問題では、特に3年生後半に学習した疑問詞＋to不定詞の定着が悪いことが分かった。 ●場面に応じて書く英作文や、まとまった内容で説明する作文には市の平均を下回ってはいるものの差は	・基本文の反復練習をする。 ・自己表現活動を多く取り入れる。 ・家庭学習の習慣を定着させる。 ・自分の考えや意見を作文するような場目を設定し、3文から5文でまとまりのある作文となるよう、文の構造についてさらに履修を深めたい。

宇都宮市立清原中学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・自主学習の推奨	・自主学習ノートを全員に持たせ、定期的にノートの内容をチェックし、生徒の頑張りを励ましていく。 ・「学習だより」などでの自主学習の啓発 ・自主学習ノート展覧会の実施	・「学習に対して自分から進んで取り組んでいる」という質問で、1・2年生の肯定割合が昨年度より10ポイント近く上がった。 ・「自分で計画を立てて家庭学習に取り組んでいる」という質問でも1・2年生の肯定割合が昨年度より高くなった。
・「話し合い活動」の工夫	・各教科で「話し合い活動」を取り入れた研究授業を実施する。 ・各教員の「学力向上改善プラン」で効果があつた取組について、校内研修で取り上げ確認した。	・「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している。」「自分の考えを根拠をあげながら話すことができる。」との設問で、1・2年生での肯定割合が昨年度より高まった。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

- ・授業の中で、各教科の基礎基本の定着を図るとともに、生徒の興味関心をひきつけつつ生徒が主体的に学習に臨めるよう意欲付けをしていく。
- ・授業の中で「話し合い活動」を効果的に活用する指導の工夫を、各教員の「学力向上改善プラン」などを通して引き続き模索していく。
- ・自主学習の奨励を、家庭の協力を仰ぎながら学校全体で行っていく。自主学習に意欲をもって取り組んでいる生徒とそうでない生徒との温度差をいかになくしていくか、引き上げていくかが課題である。